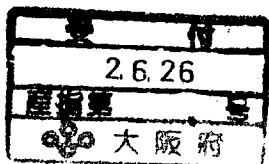


(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和2年 6月25日

大阪府知事 殿



提出者

住 所 大阪府柏原市玉手町24-12

氏 名 サラヤ株式会社大阪工場 天野景清

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 072-977-1212

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	サラヤ株式会社 大阪工場
事業場の所在地	大阪府柏原市玉手町24-12
計画期間	平成2年4月1日～令和3年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	16：化学工業
②事業の規模	前年度製品出荷額：48億円
③従業員数	203人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項
(管理体制制図) 別紙2のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		産業廃棄物の排出の抑制に関する事項										
①現状	【前年度 (31年度) 実績】	無機性汚泥 (製品) A	2 t	①現状	食品廃棄物(動植物性残渣) F									
	産業廃棄物の種類	無機性汚泥 A	532 t	プラスチック類 B	50 t	木くず D	39 t	廃液(廃アルカリ) E	583 t	蛍光灯G	0.05			
②計画	【目標】	無機性汚泥 (製品) A	18 t	②計画	プラスチック類 B	45 t	木くず D	30 t	廃液(廃アルカリ) E	200 t	食品廃棄物(動植物性残渣) F	60 t	蛍光灯G	0.05
	産業廃棄物の種類	無機性汚泥 A	370 t	排出量	370 t	排出量	370 t	排出量	370 t	排出量	370 t	排出量	370 t	排出量
産業廃棄物の分別に関する事項		産業廃棄物の分別に関する事項		産業廃棄物の分別に関する事項										
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・プラスチック類は分別により、一部有価物として排出。金属類は分別作業にて有価物として排出。 ・アルコール類は一部有価物として排出。		(今後実施する予定の取組) 上記に加え、下記の取組みを実施予定 ・関東工場操業開始(2020.3)により大阪工場の製造が1/3に減少する											
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・特になし													

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

プラスチック類 B	50 t	木くず D	39 t	廃液(廃アルカリ) E	583 t	食品廃棄物(動植物性残渣) F	64 t	蛍光灯G	0.05
-----------	------	-------	------	-------------	-------	-----------------	------	------	------

②計画

プラスチック類 B	45 t	木くず D	30 t	廃液(廃アルカリ) E	200 t	食品廃棄物(動植物性残渣) F	60 t	蛍光灯G	0.05
-----------	------	-------	------	-------------	-------	-----------------	------	------	------

抑制に関する事項

金属くずC	乾電池H						
t	2.3 t	0.0 t	t	t	t	t	t

金属くずC	乾電池H						
t	2.0 t	0.1 t	t	t	t	t	t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

【前年度(31年度)実績】		①現状				②計画						
産業廃棄物の種類	無機性汚泥(製品) A	無機性汚泥(製品) A	プラスチック類 B	木くず D	廃液(廃アルカリ) E	食品廃棄物(動植物性残渣) F	蛍光灯 G	プラスチック類 B	木くず D	廃液(廃アルカリ) E	食品廃棄物(動植物性残渣) F	蛍光灯 G
①現状	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) ・実施していない	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
②計画	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量 (今後実施する予定の取組) ・予定なし	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

【前年度(31年度)実績】		①現状				②計画						
産業廃棄物の種類	無機性汚泥(製品) A	無機性汚泥(製品) A	プラスチック類 B	木くず D	廃液(廃アルカリ) E	食品廃棄物(動植物性残渣) F	蛍光灯 G	プラスチック類 B	木くず D	廃液(廃アルカリ) E	食品廃棄物(動植物性残渣) F	蛍光灯 G
①現状	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) ・実施していない	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
②計画	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量 (今後実施する予定の取組) ・予定なし	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状

プラスチック類 B 0 t
木くず D 0 t
廃液(廃アルカリ) E 0 t
食品廃棄物(動植物性残渣) F 0 t
蛍光灯 G 0 t

②計画

プラスチック類 B 0 t
木くず D 0 t
廃液(廃アルカリ) E 0 t
食品廃棄物(動植物性残渣) F 0 t
蛍光灯 G 0 t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状

プラスチック類 B 0 t
木くず D 0 t
廃液(廃アルカリ) E 0 t
食品廃棄物(動植物性残渣) F 0 t
蛍光灯 G 0 t

②計画

プラスチック類 B 0 t
木くず D 0 t
廃液(廃アルカリ) E 0 t
食品廃棄物(動植物性残渣) F 0 t
蛍光灯 G 0 t

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度(31年度)実績】		①現状	
	産業廃棄物の種類	無機性汚泥 A	無機性汚泥(製品) A	無機性汚泥(製品) A
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量 (これまでに実施した取組) ・実施していない	0 t	0 t	0 t

②計画	【目標】		②計画	
	産業廃棄物の種類	無機性汚泥 A	無機性汚泥(製品) A	無機性汚泥(製品) A
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量 (今後実施する予定の取組) ・予定なし	0 t	0 t	0 t

①現状	【前年度(31年度)実績】		①現状	
	産業廃棄物の種類	無機性汚泥 A	無機性汚泥(製品) A	無機性汚泥(製品) A
	優良認定処理業者への処理委託量	582 t	2 t	2 t
	再生利用業者への処理委託量	582 t	2 t	2 t
	認定熱回収業者への処理委託量	582 t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t
	(これまでに実施した取組) ・産廃情報ネット等の情報を参考に、委託基準を遵守できざる産廃処理業者を選定しており、定期的に処理状況の現地確認を行っている。			

①現状	【前年度(31年度)実績】		①現状	
	産業廃棄物の種類	無機性汚泥 A	無機性汚泥(製品) A	無機性汚泥(製品) A
	全処理委託量	582 t	2 t	2 t
	優良認定処理業者への処理委託量	582 t	2 t	2 t
	再生利用業者への処理委託量	582 t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t
	(これまでに実施した取組) ・産廃情報ネット等の情報を参考に、委託基準を遵守できざる産廃処理業者を選定しており、定期的に処理状況の現地確認を行っている。			

①現状	【前年度(31年度)実績】		①現状	
	産業廃棄物の種類	無機性汚泥 A	無機性汚泥(製品) A	無機性汚泥(製品) A
	全処理委託量	582 t	2 t	2 t
	優良認定処理業者への処理委託量	582 t	2 t	2 t
	再生利用業者への処理委託量	582 t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t
	(これまでに実施した取組) ・産廃情報ネット等の情報を参考に、委託基準を遵守できざる産廃処理業者を選定しており、定期的に処理状況の現地確認を行っている。			

①現状	【前年度(31年度)実績】		①現状	
	産業廃棄物の種類	無機性汚泥 A	無機性汚泥(製品) A	無機性汚泥(製品) A
	全処理委託量	582 t	2 t	2 t
	優良認定処理業者への処理委託量	582 t	2 t	2 t
	再生利用業者への処理委託量	582 t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t
	(これまでに実施した取組) ・産廃情報ネット等の情報を参考に、委託基準を遵守できざる産廃処理業者を選定しており、定期的に処理状況の現地確認を行っている。			

①現状	【前年度(31年度)実績】		①現状	
	産業廃棄物の種類	無機性汚泥 A	無機性汚泥(製品) A	無機性汚泥(製品) A
	全処理委託量	582 t	2 t	2 t
	優良認定処理業者への処理委託量	582 t	2 t	2 t
	再生利用業者への処理委託量	582 t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t
	(これまでに実施した取組) ・産廃情報ネット等の情報を参考に、委託基準を遵守できざる産廃処理業者を選定しており、定期的に処理状況の現地確認を行っている。			

① 処分又は海洋投入処分に関する事項

金属くず C	乾電池H						
0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

金属くず C	乾電池H						
0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

② に関する事項

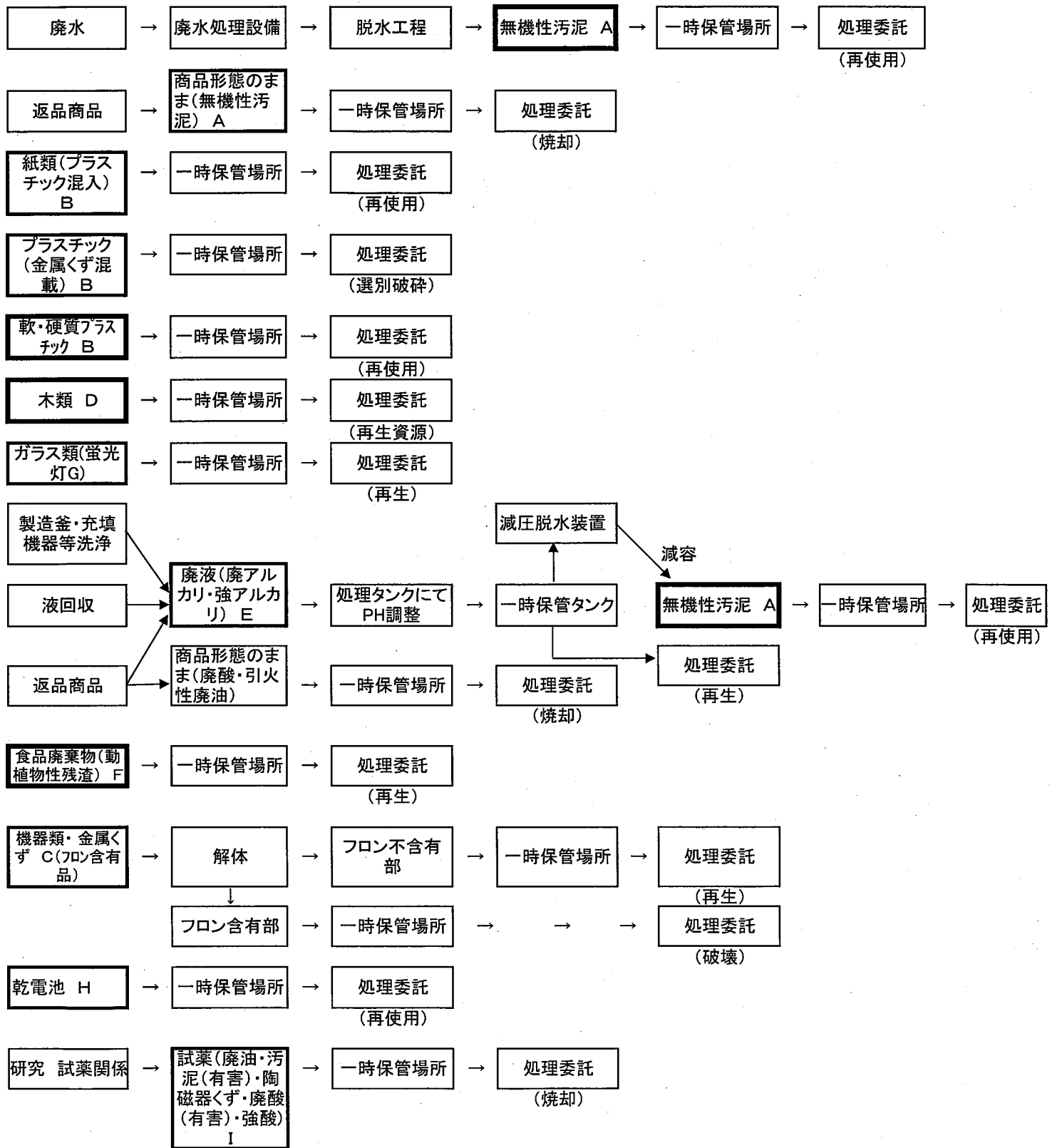
金属くずC	乾電池H						
2.30 t	0.00 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
2.30 t	0.00 t	t	t	t	t	t	t
2.30 t	0.00 t	t	t	t	t	t	t
t	t	t	t	t	t	t	t
t	t	t	t	t	t	t	t

【目標】				
産業廃棄物の種類	無機性汚泥 A	無機性汚泥(製品) A	プラスチック類 B	木くず D
全処理委託量	370 t	18 t	45 t	30 t
優良認定処理業者への処理委託量	370 t	18 t	6 t	30 t
再生利用業者への処理委託量	370 t	t	45 t	30 t
認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t
認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t
②計画 (今後実施する予定の取組)				
・委託処理業者に対しては、引続き定期的に処理状況の現地確認を行う。				
※事務処理欄				

②計画

廃液(廃アルカリ) E	食品廃棄物(動植物性残渣) F	蛍光灯 G	金属くずC	乾電池H	
200 t	60 t	0.05 t	2.00 t	0.1 t	t
200 t	t	0.05 t	2.00 t	0.1 t	t
200 t	60 t	0.05 t	2.00 t	0.1 t	t
t	t	t	t	t	t
t	t	t	t	t	t

産業廃棄物の処理の工程



管理体制図

